

企業の志魂

こころ

イメージテクノロジー

ユビキタス社会を担う俊英

「切磋琢磨」を会社基軸に

(時経)という中国最古の詩歌集に「切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如く」なる一節がある。武公という王を称えた詩で、この王は生涯自己啓発を怠らず、国中から諫言を求めた名君だった。「切磋」とは動物の骨や角を細

工するとき、切ったり研いだりすること。「琢磨」とは玉や石を細工するとき、削ったり磨いたりすること。転じて現代では、地道な努力の積み重ねを指す言葉だ。

(代表取締役社長・許偉剛氏)は、「We touch the future

by imagination」を合言葉に、高度な技術による日本発のディファクトスタンダードを目指している画像と動画圧縮エンジン開発の俊英。ユビキタス社会を担う次代の旗手として、関係各先からの注目度も高い。まさに「切磋琢磨」を会社基軸とする画像処理技術や人工知能技術のプロ集団だ。世界初となる「第四世代高速軽量動画圧縮方式」を開発し、この技術を応用したストリーミング動画通信システムでは、携帯Javaアプリケー

ションで映画並みに高画質な動画を再生することができる。常に上昇志向のベンチャースピリットを持ち、あくなき技術の追求にチャレンジする社風こそ、同社の起点であり、高い成長軌道が続ける要因だ。人が原点、商品が中心…という考え方を社員一人ひとりが実践。ユニークかつ自由な発想で、「社会と人に感動を与える商品」を世に送り出したい」として、さらなる精進と努力、切磋琢磨に余念がない。

新宿区西新宿8・14・21